

報道関係者 各位

令和4年1月27日
(照会先)
全国健康保険協会山形支部
企画総務グループ 佐藤
電話：023-629-7226

ジェネリック医薬品の使用状況について

ジェネリック医薬品については、「医療用医薬品の供給不足に係る対応について」（令和3年12月10日付け厚生労働省医政局経済課長通知）にもあるとおり、一部の後発医薬品製造販売企業が製造管理及び品質管理体制の不備により処分を受け、製品の製造や出荷を長期間停止又は縮小したことを発端として、医薬品製造販売業者各社が自社の製品の供給を継続するための出荷調整が広範に実施されています。

これらの出荷停止や出荷調整を受け、多くの製品の供給に影響が生じている状況であり、医療機関及び薬局において、必要な量の医薬品を入手することが困難になっているところです。

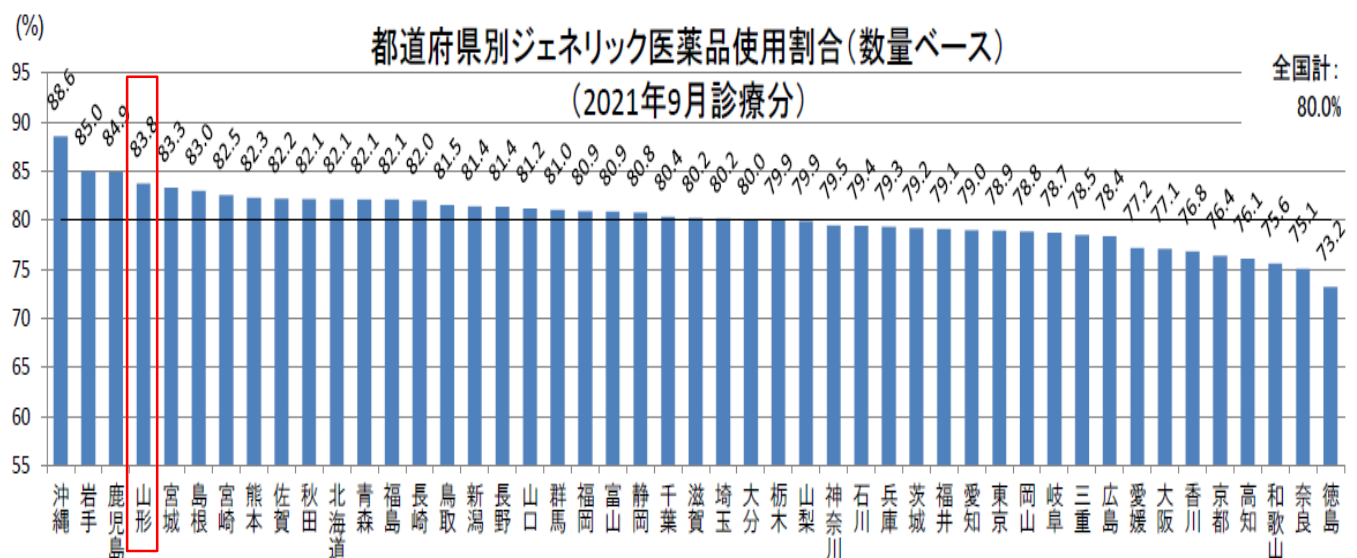
一方で、出荷調整が行われている医薬品の中でも、供給量が昨年9月と比べて5%以上増加しているものもあったため、該当する医薬品については出荷調整を解除し、リソースの再分配を行うことで医薬品の安定供給体制の再構築を図ることについての協力依頼がなされました。

ジェネリック医薬品を取り巻く環境は、上記のとおり大きな変化を迎えておりますが、協会けんぽでは、増え続ける医療費の抑制や加入者のお薬代の負担軽減のために、先発薬と比べ価格が安い「ジェネリック医薬品」の普及推進を目指した取り組みを継続して行っております。

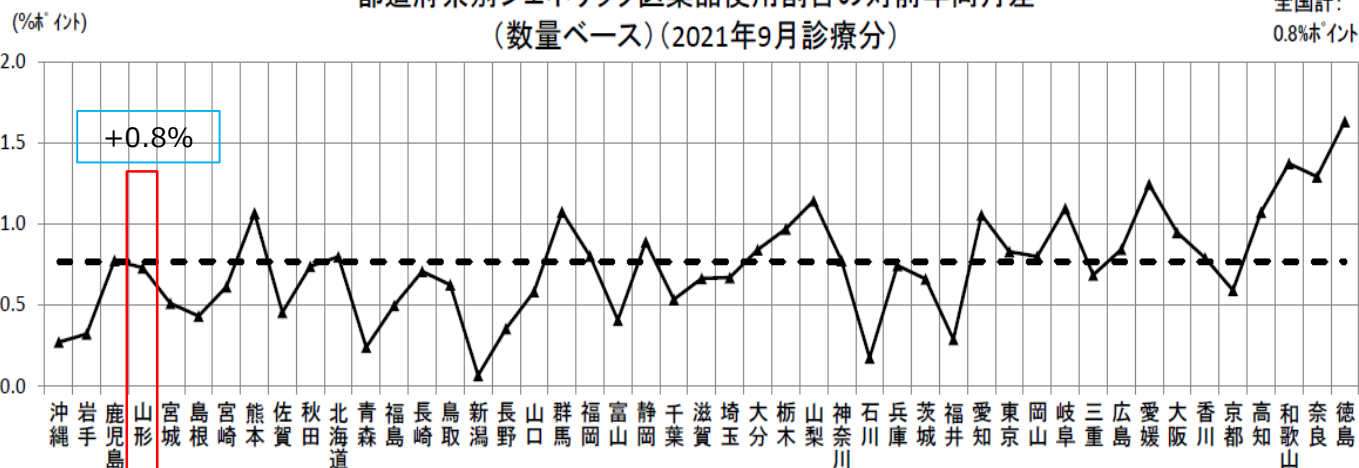
このたび、山形支部において、2021年9月診療分のジェネリック医薬品使用状況をとりまとめましたので公表いたします。

○山形支部の使用割合は全国4位の高い使用率

2021年9月診療分のジェネリック医薬品使用割合をみると、全国平均は80.0%となっており、山形支部の使用割合は83.8%で全国4位、東北では岩手に続き2番目の順位となっております。なお、対前年同月差でみると0.8%の伸びとなりました。



都道府県別ジェネリック医薬品使用割合の対前年同月差 (数量ベース)(2021年9月診療分)



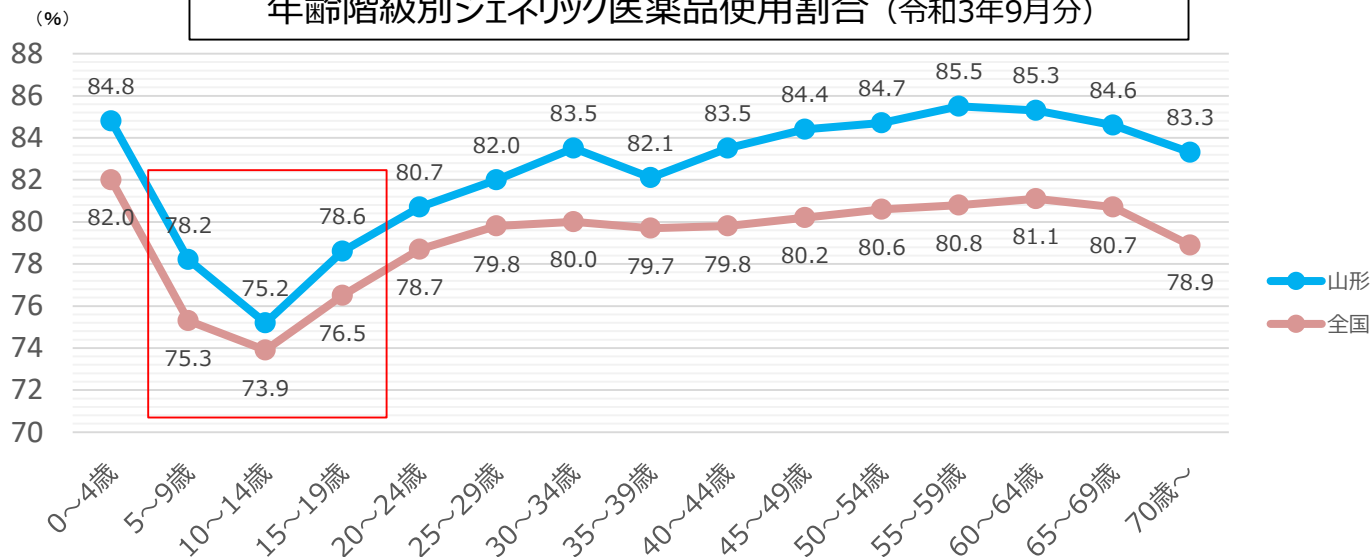
<年齢階級別のジェネリック医薬品使用割合>

〇5～19歳の使用割合が低い傾向に

年齢階級別にジェネリック医薬品の使用割合をみると、全ての年齢階級において全国平均を上回っておりま
す。一方、若年層においては全国的に使用割合が低い傾向がみられ、その傾向は山形支部においても同様
となっております。

医薬品の構成割合でみると、50歳以降の加入者の占める割合が高くなりますが、使用割合の低い5歳～
19歳までの若年層においても7.8%程度を占めていることから、これらの層のジェネリック医薬品の使用割合が、
他の年齢階級と同等程度にまで上がることで、支部全体の使用割合が向上することが期待されます。

年齢階級別ジェネリック医薬品使用割合（令和3年9月分）



年齢階級別構成割合（後発医薬品のある先発医薬品の数量+後発医薬品の数量）

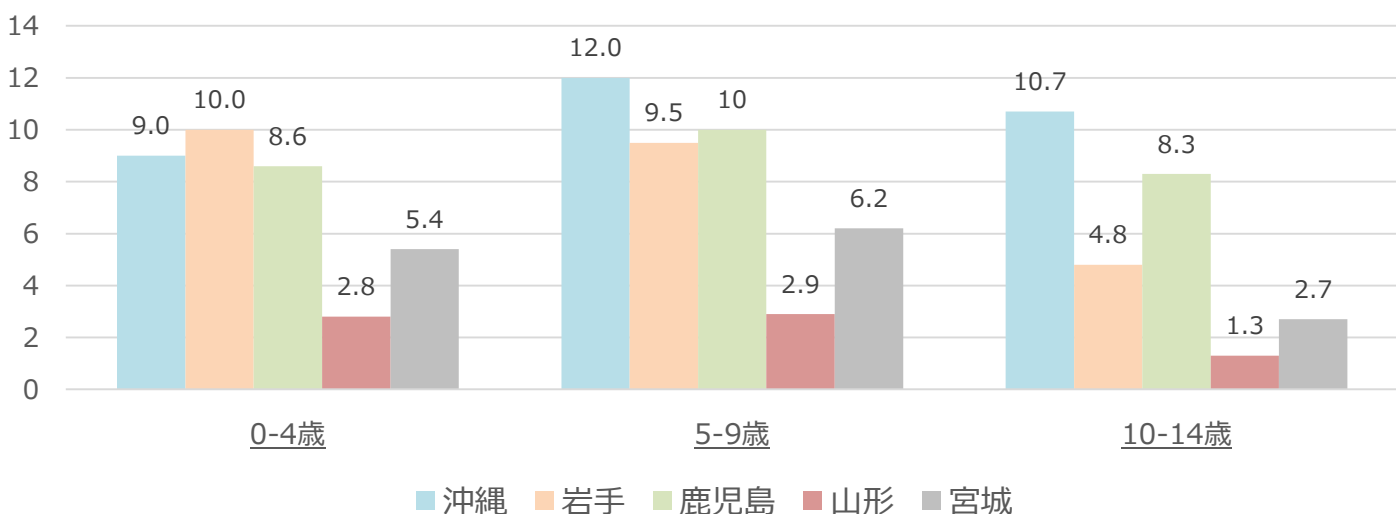
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
山形	4.5	3.1	2.5	2.2	1.9	2.3	3.1	4.3	5.8	7.7	9.5	11.6	16.2	13.5	11.8
全国	3.2	2.5	2.1	2.1	2.4	3.0	3.7	4.7	6.4	9.5	11.1	12.1	14.2	12.1	10.8

<使用割合上位5支部の年齢階級別比較>

○山形支部の若年層の使用割合は伸び悩み傾向に

ジェネリック医薬品の使用割合が高い上位5支部（沖縄・岩手・鹿児島・山形・宮城）の0～14歳までの使用割合（全国平均との差）をみると、5支部全てにおいて全国平均を上回ってはいるものの、山形支部においては他の4支部と比較し若年層の使用割合が低い傾向にあります。

年齢階級別使用割合（全国平均との差）



そのため山形支部では、若年層のジェネリック医薬品使用割合向上に向けて、自治体と共同でジェネリック医薬品やこども医療制度に関する広報を実施しています。

その笑顔が見たいから。

いつでも

子ども医療制度を守るために

ジェネリック医薬品

山形市：約32,000部
米沢市：約10,000部
鶴岡市：約 4,000部
酒田市：約12,000部

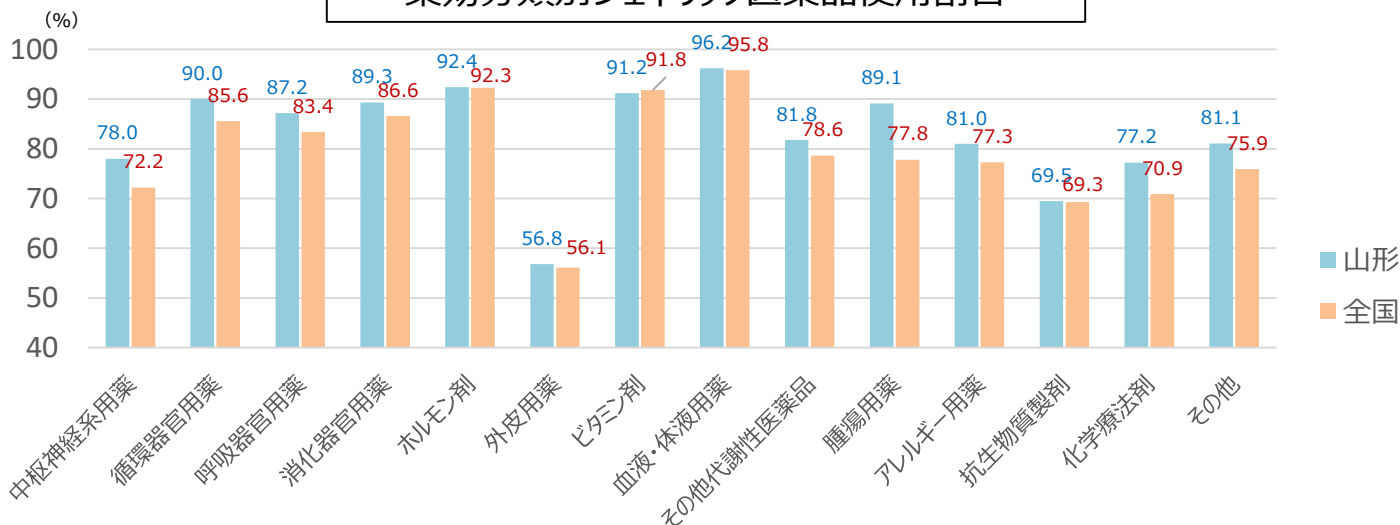
<薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合>

○ほぼ全ての薬効分類において全国平均を上回る結果に

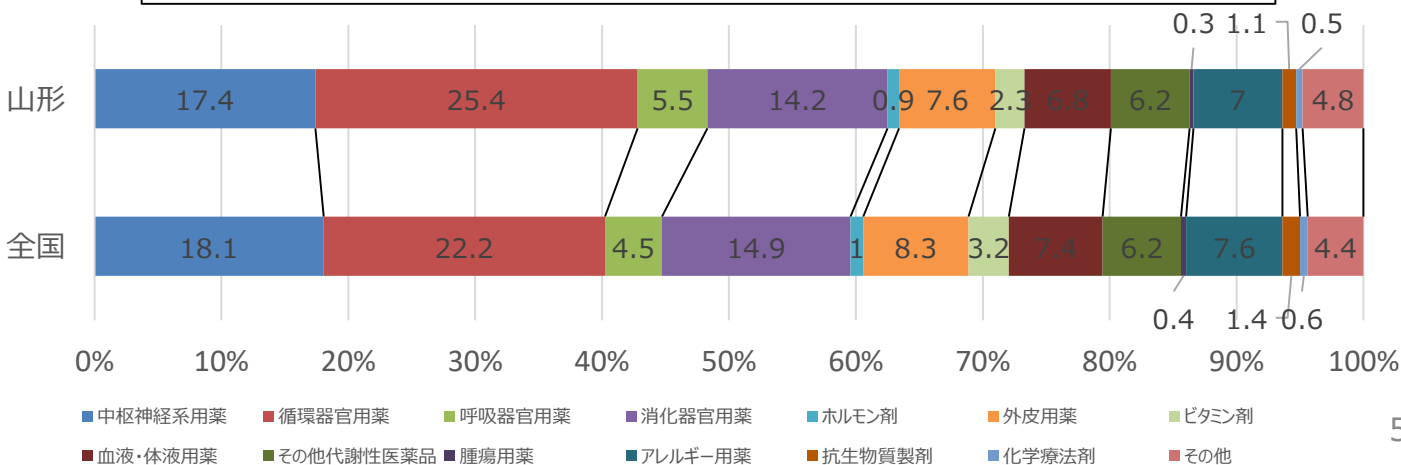
ジェネリック医薬品の使用割合を薬効分類別にみると、ビタミン剤を除く全ての薬効分類において全国平均を上回りました。

山形支部の薬効分類別構成割合をみると、循環器官用薬の割合が25.4%と全国平均の22.2%を大きく上回っており、高血圧等の疾患にかかる医薬品の割合が高いことがわかります。その循環器官用薬のジェネリック医薬品の使用割合については90.0%と全国平均の85.6%を大きく上回っており、良好な状況にあります。一方で、外皮用薬の使用割合については、全国と同様に低い状況となっています。外皮用薬の構成割合は山形支部の場合7.6%となっておりその影響も大きいことから、外皮用薬のジェネリック医薬品使用割合向上を図ることが全国と同様に山形支部においても大きな課題となっております。

薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合



薬効分類別構成割合（後発医薬品のある先発医薬品の数量+後発医薬品の数量）



ジェネリック医薬品の使用は、加入者の窓口負担軽減や医療費の適正化による保険料負担の上昇抑制につながるため、医薬品の供給が不安定な状況下ではありますが、医師・薬剤師等に相談のうえ、“ジェネリック医薬品を選択できるものについては選択する”ということが重要であります。

山形支部のジェネリック医薬品使用状況等、多くの方がジェネリック医薬品を選択していることにつきまして、是非各種報道機関様においてお取り扱いいただきますようよろしくお願いいたします。